

梨

使用産地：千葉県、栃木県、鳥取県など

使用目的： 梨の根群は2月中旬から発達を始め4月下旬～5月下旬末がピークとなります。果実の収穫が終わる9月には根の伸長が始まり11月末まで続きます。

こうしたことから、梨の施肥は一般に冬期に元肥を施用するとともに、収穫後にいわゆる礼肥（9月頃）が施用されます。秋肥（礼肥）は梨樹を果実肥大の疲労から回復させ、翌年の貯蔵養分を多くつくる目的で施用されます。

コフナは初期の根の伸長を促進させることで、十分な養分吸収に寄与します。果実肥大からの疲労回復と養分貯蔵の促進をはかります。

基本的な使用方法： 落葉後、元肥（礼肥）とコフナを15袋/反あたりを同時散布

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月								
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
千葉県・船橋市・市川市	★			→			→			→			→			→			→			→			→			→			→			→			→			→		
梨	剪定									受粉・摘花			摘果												収穫			収穫			収穫			15袋/反 同時散布 元肥コフナ			剪定					

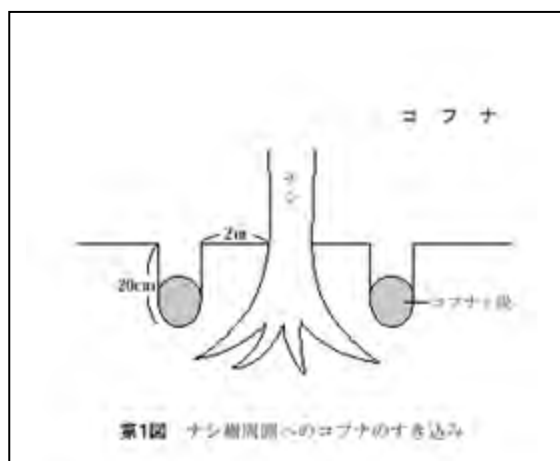
使用事例： 千葉県市川市・船橋市

晩生の新高収穫後、元肥とコフナを混和後ブロードキャスターにて散布

使用数量： 15以上袋/反

その他： 樹勢が落ちているときの回復のために右図の方法を実施することが有ります。

栽培特性： 梨にはニホンナシ、セイヨウナシ、チュウゴクナシがありますが、国内ではニホンナシが大半で、その他セイヨウナシが出回っています。梨は、他の落葉果樹とともに低温には比較的強く、主産地は平均気温が12～15℃の地域に分布しています。



梨は、比較的湿潤な土壌が適しており、有機質に富み、有効土層が深く排水の良い壤土で生育が優れています。耐水性は比較的強いが耐乾性が弱く、水分要求度は果樹の中では高い方です。耐水性はモモよりは強いがブドウやカキよりも弱いです。梨の産地はこうした気象条件や土壌条件を満たす東北の福島県、関東の茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、中部の長野県、さらに鳥取県を中心とした山陰地方など中部温帯地域に形成されています。